

衛靈公第十五

子曰、不曰如之何、如之何者、
吾未如之何也已矣。

子曰わく、之れを如何にせん、之れを如何にせん、と曰わざる者は、
吾、未だ之れを如何ともすることなきのみ。

(15-394)

<子曰わく、之れを如何にせん、之れを如何にせん、と曰わざる者は、吾、未だ之れを如何ともすることなきのみ>

Q：「子曰わく、之れを如何にせん、之れを如何にせん、と曰わざる者は、吾、未だ之れを如何ともすることなきのみ」とは何ですか。

- A：(1)「孔子が言った。どうしたらいいだろう、どうしたらいいだろう、と、自分なりに思案に思案を重ねて苦慮しない者に対しては、私もまた、どうすることもできないのだ」の意。
- (2)「どうしたらよからうか、どうしようかなあと言って、みずからの思慮を尽くして解決を求めようとする者でなかったら、私としても何としてもやりようがないものだ」の意。
- (3)「如之何」とは、どうしよう、疑問の辞。重言したのは、文勢を整えるため。常に「之を如何せん」と繰り返して、疑問を抱き、熱心に求めること。
- (4)これも孔子の教育法的一面をあらわすもの。156章の「啓発」と合わせてみるべき。その言は簡であるが、学者に対する痛烈極まる警誡(注意喚起のためのことば)である。単位を取って能事、れりとする学生に是非聴かせたい。